

日産財団ニュースレター (第36号)

2017年12月発行



ひとを育て、未来に夢を...

はじめに

日産財団では、2016年度理科教育助成(助成期間2017.1.1~2018.12.31)の対象校・団体の1年目の活動状況を把握するための助成校・団体への訪問を実施しています。それぞれの学校・団体の実践内容を、日産財団ニュースレターで紹介していきます。

◆ 2016年度助成校・団体の活動紹介(2017年11月に訪問した6件)

神奈川県 平塚市立旭陵中学校



2年生理科の「化学変化と原子・分子」の公開授業研究会の様子。金属はなぜサビるのかについて、9つのグループが自分たちで考えた背景・疑問・課題・仮説・手順・結果・考察・感想を発表。聞き手は、発表者の声量や説明のわかりやすさなどを「評価シート」にコメントしながら聞いていた。

福岡県 行橋市立今川小学校



70年以上理科を研究していて、研究発表会では全学級で理科・生活科の授業が実施された。写真左は1年生で、どんぐりごまのバランスが釣り合っていて喜んでいる様子。写真中は2年生のおもちゃ作り。写真右は4年生、金属球膨張実験器で、金属も温度によって体積が変化することを確認しているところ。

神奈川県 小田原市立白山中学校



絶滅危惧種の小田原メダカの飼育と繁殖に力を入れるとともに、小田原メダカを題材にした教材開発を行い、遺伝子の多様性や保全活動の重要性について考える授業を実践する。訪問当日は『白山学区交流祭』で、学区の小学生と保護者が多数訪れ、ステージ上で科学部の発表会も開催された。

福岡県 北九州市立藤松小学校



「音の性質」を試行実施した3年生の公開授業。「糸電話の糸を緩めると、なぜ音は伝わらないのか」をめあてとし、糸電話の糸を張った時と緩めた時の糸の震えを子どもたちは確かめている。模造紙に震えがあった位置には赤シールを、無かった位置には青シールを貼り、その結果から理由を考察している。

福岡県 飯塚市立飯塚東小学校



『ICT支援事業研究発表会』での5年生「流れる水のはたらき」(写真左)と4年生「もののあたたまりかた」(写真中)の公開授業。どちらのクラスも「知識構成型ジグソー法」を用いた協調学習授業が実施された。4年生では対象児童3名の授業中の対話記録から、その子たちの学びの過程を分析し、協議会で報告された。5年生協議会では指導助言者からジグソー法実施にあたってのポイントが語られた。

福島県 いわき市立高坂小学校



5年生の単元「もののとけ方」の授業。「食塩は水に入れるとどうなるか」を問いとして、児童が予想。写真中央は、フィルタ内に食塩を入れ、水を入れたビーカーの上部から吊るして浸すことで、溶けだした食塩がゆらぐ様子(シュリーレン現象)を見ながら、考察を行っている。写真右は、水を入れた長いビーカーの上部から少量の食塩を落とすことで、段々と粒の大きさが小さくなっていく様子を観察している。